

手外科領域の疾患 ③

肘部管症候群

整形外科副部長兼副手術部長 中村 恒一

今回は肘部管症候群についてご紹介します。この病気は小指とくすり指のしびれが主な症状になります。病気が進行すると親指とひとさし指の間がやせてきて、小指、くすり指が曲がってきます。箸を使う、字を書く、ボタンをかけるなどの細かい作業がしづらくなります。

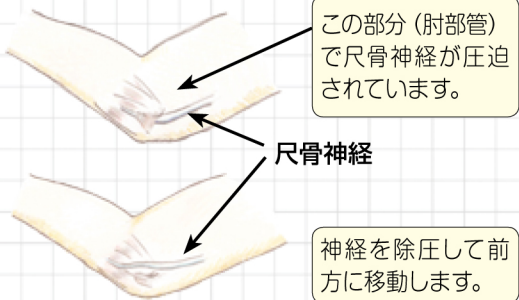


小指とくすり指が曲がってきます。

この部分の筋肉がやせてきます。

小指とくすり指の半分がしびれます。

当院での手術方法（尺骨神経前方移動術）



この部分（肘部管）で尺骨神経が圧迫されています。

尺骨神経

神経を除圧して前方に移動します。

肘関節の変形がある人に多く認められ、比較的男性に多い病気ですが、女性でも起こります。肘の部分で尺骨神経という神経が圧迫されています。肘をまげていると小指、くすり指のしびれが強くなる事が多いです。

当院では肘部管における神経の圧迫を取り除き神経を前方に移動する手術を主に行っています。2〜3日の入院が必要になります。

このような症状がありましたらお気軽に整形外科外来を受診してください。